

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Communication Theory Laboratory		
英文授業科目名	Communication Theory Laboratory		
開講年度	2008年度	開講年次	3、4年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-国際科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	外山 昇		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
toyama@fedu.uec.ac.jp	http://www.fedu.uec.ac.jp/~toyama/

<p>【主題および達成目標】</p> <p>英語で行う科目です。雑音がある通信システムの解析を行います。デジタル解析に必要な、確率過程を学びます。デジタル変調の信号対雑音比と誤り率の関係を計算できることが目標です。確率過程のパワースペクトルについても学びます。この授業は、Communication Theoryの授業の演習です。この授業を受講する人は必ずCommunication Theoryの授業を受講してください。演習だけを履修することはできません。この演習では、Communication Theoryの授業で出題される問題（通常5問）を解く手助けをするものです。従って、この演習の時間までに全ての問題（通常5問）を自宅で解いていれば、演習の時間に提出するだけで、授業の終わりまで、教室にいる必要はありません。提出した解答はすぐに採点され、次回の授業の時に返却されます。このとき、間違えていた問題については、次回の演習の時間に再提出する必要があります。演習問題の答えを1回でも提出しないと、単位を取得出来ませんので注意して下さい。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>Communication Theoryのシラバスを参照してください。</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>Communication Theoryのシラバスを参照してください。</p>
--

<p>【教科書等】</p> <p>Modern Digital and Analog Communication Systems, third edition, by B.P. Lathi, Oxford University Press</p>
--

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

演習問題を解くことが中心です。教科書の10章から最後まで学びます。講義の時間に出題される演習問題を解きます。解き方が分からない人にはヒントを示します。演習問題を全て解答しなすと次の講義の理解は難しいので、必ず解く必要があります。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

全部で約75問(5問/週)×15回)の問題の平均点で成績を評価します。再提出の問題の得点は50%に減点されます。成績評価は以下のとおりですが、一度でも答案の提出を怠ると、単位を取得出来ませんので注意して下さい。また、この演習における得点はCommunication Theoryの成績に10%反映されますので、Communication Theoryで良い成績を取るためにはこの演習でも良い成績を取る必要があります。

【オフィスアワー：授業相談】

授業中に予約するか、電子メールで連絡してもらえば、出来るだけ相談に応じるようにします。

【学生へのメッセージ】

英語で専門科目を履修することは、将来国際舞台で活躍するための第一歩と思いチャレンジして下さい。翻訳書も用意してあります。英語に自信が無い人も教科書に目を通し、数式が理解できれば、積極的に履修して下さい

【その他】

この科目は、Communication Theory と対をなす科目です。Communication Theory Laboratory だけを履修することはできません。また、出席点を重視します。事前の届け出なしに、3回欠席すると、単位を取得することができなくなります